



岩手県立大東病院

院長 杉山 照幸

岩手県立大東病院の所在する岩手県一関市大東町は、岩手県南部の内陸に位置し、東には陸前高田市と隣接します。大東町の人口は約 13,000 人で、かつては、内陸部と沿岸部の交易で栄えましたが、現在の公共交通機関は JR 大船渡線摺沢駅より大東病院へはバスのみ、中山間地域で若者は町外に職場を求めて流出し、高齢化が進行している地域です。大東病院の診療圏は大東町大原とその周辺で、診療圏人口はおよそ 4500 人（高齢化率約 45%）です。病院の正面に室根山を仰ぎ、病院の前には清流砂鉄川が流れる自然豊かな地域です。

当院は昭和 23 年 5 月岩手県国保連大原地方病院として病床数 20 床で開院しました。その後昭和 25 年 11 月に県営移管し、岩手県立大原地方病院となりました。昭和 31 年 4 月には現在の「岩手県立大東病院」と改称、その間徐々に増床してゆき、平成元年 3 月にはリハビリテーション病棟完成、2 年後の病院増改築工事野ののちに一般病床 140 床の病院となりました。当時は岩手県南地域のリハビリテーション施設としての役割を担っており、平成 13 年 11 月には岩手県から「両磐地域リハビリ広域支援センター」の指定を受けました。温水プールとエクササイズ用具を備えた体育館を持つ健康施設併設病院として住民にも親しまれておりました。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災で病棟使用不能、プールなど健康施設も運営不能となり、その後の病院の運営について岩手県と住民との協議が進められ、平成 26 年 4 月より 1 病棟 40 床で入院機能を再開しました。

現在は地域に密着した医療機関として、地域包括ケア病床 20 床と一般病床 20 床で運営しております。基幹病院からの急性期治療後の転入院や通院中の患者さんの病状悪化時や軽症感染症などの治療のための入院、在宅療養している患者さんの介護者の疲弊予防のためのレスパイト入院などを受け入れています。住み慣れた地域で過ごすための訪問診療も行っています。自宅や住み慣れた地域で最期を迎えるための看取り入院や在宅看取りも行います。

医師は、内科と外科は常勤医 3 名と診療応援医師が担当しています。脳神経内科と皮膚科は診療応援により週 1 回ずつ診療を行っています。看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士などコメディカルとの協働体制が密で、和気あいあいとした雰囲気です。日常診療に取り組んでいます。しかしながら、近隣の開業医も徐々に減りつつあり、人口過疎地、医療過疎地における医療機関の今後の在り方を探りながら病院を運営しています。